



職員劇復活

今年度の青桜祭文化祭の部は、テーマ「Youthful days」のもと、9月5、6日に開催されました。クラス、部活動、委員会などによる趣向を凝らした、テーマ性のある素晴らしい発表が相次ぎましたが、その中で、8年ぶりに職員劇を復活させました。本校初の職員劇は、開校5年目にあたる昭和63年度に行った「敦煌」で、当時、本校に勤務していた私は主役の趙行徳ちやうぎやうとくの役をやらせていただきました。そして、その翌年

には「シェークスピアアラカルト」と題した劇を行いました。これは、シェークスピア戯曲の名場面集を演じたもので、「ロミオとジュリエット」、「マクベス」、「ハムレット」、「ヴェニスの商人」、「真夏の夜の夢」の5作品をコラボしました。このうち私はマクベスの役をやらせていただきました。マクベス夫人は、現在、本校に勤務していらっしゃる高谷日和先生でしたが、高谷先生はこの職員劇をきっかけに「劇団はぐるま」の門を叩かれました。私自身も演劇に魅了され、その後、赴任した学校でも、職員劇の脚本、演出、キャストと幅広く関わってきました。今年はその集大成と考え、1952年というはるか昔の映画『真昼の決闘』を脚色しました。舞台は1870年のアメリカ西部の町で、たった一人で無頼漢4人に挑む保安官の姿を描きました。多くの生徒たちが見に来てくれ、また盛り上げてくれて、先生方も気分よく演技をすることができました。生徒たちが、「こんな先生方と一緒に学べる各西生でよかったなあ」と思ってくれたのなら、今年の職員劇は大成功だったと思います。

ところで職員劇の舞台となった西部開拓時代に生まれ、今でもアメリカの人たちの心に息づいている「フロンティアスピリット」という精神があります。これは、「開拓者魂」と訳されることも多いのですが、困難に打ち勝って西部に土地を開拓したアメリカの人たちが持っている進取・自由の精神のことをいいます。文化祭の最後にWANIMAの『やってみよう』という曲を生徒全員で大合唱しましたが、その歌詞の中にも、このフロンティアスピリットにつながる言葉がたくさんありました。たとえば「正しいより楽しい、正しいより面白い、やりたかったこと、やってみよう、失敗も思い出、はじめよう、やってみよう、誰でも最初は初心者なんだから、やったことないこともやってみよう、苦手な相手とも話してみよう、知らなかったこと、見たことないもの、あたらしい、楽しい、TRY TRY」というフレーズです。生徒たちは、2日間を通して、さまざまなことにトライし、宝物を作り上げ、感動を共有するというフロンティアスピリットを実践しました。人間的にも大きく成長できた「Youthful days」だったと思います。



横山彰T

高谷T・虫賀

【H元年度の職員劇(上)、H29年度の職員劇(下)】

